

平成29年度事業計画

<付：事業計画 体系>



～目次～

平成29年度事業計画にあたって	2
平成29年度スローガン	3
I. 重点施策と重点事業	3
II. 一般事業	4
重点施策と重点事業体系図	5
III. 長中期計画の行動計画より平成29年度に取り組む施策	6
平成29年度事業計画一般事業	10
平成29年度事業カレンダー	12



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

平成29年度事業計画にあたって

日本連盟では、5年後の平成34（2022）年の日本連盟創立100周年までに、日本のスカウト運動を活性化させ、「ベターワールド」の実現に向かって大きく前進できるよう「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目標としています。

そのために、平成27（2015）年には日本で第23回世界スカウトジャンボリーを開催し、大きな成果を上げました。これは、日本のスカウト運動発展のための第一歩であり、さらなる成果を上げるために、これまでに抱えた様々な課題の解決策、そして新たな発展のための取り組みを検討し、「100周年を目指した長中期計画」を策定しました。

この長中期計画は、平成28（2016）年度から行動計画に沿って取り組みを開始し、2年間から6年間で成果を出すための具体策です。例えば、セーフ・フロム・ハームは、今年度の登録から全指導者が取り組み、運動の質の向上につなげています。

平成29（2017）年度は、これまでの取り組みを踏まえて創立100周年に向けて具体的に一步踏み出す年度となります。重点施策と重点事業、長中期計画の取り組み、一般事業等は、日本連盟のみならず、県連盟、地区、団、そして加盟員全員で火の球となって取り組むことが肝要です。

そして、平成31（2019）年のラグビーワールドカップ、平成32（2020）年の東京オリンピック・パラリンピックでボーイスカウトたちが社会の前面に立って奉仕し、100周年に向けて大きく弾みをつけたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

理事長

奥島孝康

平成29年度 事業計画

平成29年度事業スローガン <案>

「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」 ～日本連盟創立100周年を目指して～

平成29（2017）年度は、日本連盟創立95周年の記念すべき年にあたり、創立100周年まで5年となり、創立100周年を目指して長中期計画を策定し、平成28年度から行動計画に沿って具体的な取り組みを進めています。

日本連盟では、高萩スカウトフィールドのグランドオープン、日本ジャンボレット高萩2017・富士特別野営2017・山中野営場お別れイベント等の開催、ボーイ・ベンチャー部門の新進級課程への取り組み、第41回世界スカウト会議（アゼルバイジャン）への日本代表団派遣、第15回世界スカウトムート（アイスランド）・第13回世界スカウトユースフォーラム（アゼルバイジャン）等への参加者の派遣等に積極的に取り組むとともに、創立100周年を目指した様々な準備を進めます。

そして、平成27年度に日本で開催した第23回世界スカウトジャンボリーの経験を踏まえて、日本のスカウト活動の活性化と加盟員拡大を最大の課題として、次の施策・事業を展開します。

I. 重点施策と重点事業

《重点施策》

1. 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み

平成34年度の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、平成29年度は2年目を迎えます。以下の12項目の行動計画への具体的な取り組みは、6ページから9ページの一覧表を参照してください。

- ① コミッショナーの充実
- ② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)
- ③ 指導者養成
- ④ 地域コミュニティづくり
- ⑤ プログラムの見直し
- ⑥ 登録制度の見直し
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割
- ⑧ 情報伝達手段の刷新
- ⑨ 組織体制の検討
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ
- ⑪ 公益事業の取り組み
- ⑫ 野外活動施設の確保

2. 加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み

加盟員の拡大と組織拡充に取り組み、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組みます。

- 加盟員獲得に向けた広報活動の展開・スカウト活動のユニークさをアピール
- 母親・父親世代へのアプローチと関心事のアピール
- 団への支援と新団設立への取り組み

3. 安定した運営

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の4項目への取り組みを進めます。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 登録料の検討
- 世界・地域との連携

4. 100周年記念事業の策定

日本連盟創立100周年まで5年となる平成29年度より、記念事業の様々な計画の検討を開始します。

- 記念事業の策定と準備開始
- 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）の会場決定

《重点事業》

1. 日本ジャンボレット高萩2017・高萩スカウトフィールド・グランドオープン

平成25年度から整備を行っている高萩スカウトフィールドを正式にオープンし、初めての日本連盟行事として日本ジャンボレット高萩2017を開催します。

2. 富士特別野営2017

山中野営場閉鎖に伴い、同野営場での最後の富士特別野営を開催します。

3. 山中野営場お別れイベント・山中野営場閉鎖

8月に山中野営場を閉鎖するにあたり、富士特別野営2017に続き、山中野営場お別れイベントを開催し、その後閉鎖に向けた工事を行います。

4. 世界および国際事業への取り組み

第9回APRサミット会議（インドネシア）および第41回世界スカウト会議（アゼルバイジャン）に日本代表団を派遣し、世界と地域の取り組みに対応します。

また、第15回世界スカウトムート（アイスランド）と第13回世界スカウトユースフォーラム（アゼルバイジャン）に青年代表を派遣します。

平成31年度に実施する第24回世界スカウトジャンボリー派遣については、派遣実行委員会による日本派遣団編成準備を進め、同会場で開催のアメリカジャンボリーを視察します。

5. 第17回日本スカウトジャンボリー開催準備

冒険 ～能登のチカラ未来へ～ をテーマに平成30年度に石川県珠洲市で開催する第17回日本スカウトジャンボリー（17NSJ）については、平成29年度に参加者の申し込み手続きを行い、年末には大枠での準備を取りまとめます。

II. 一般事業

例年あるいは定期的に取り組んでいる事業を中心に、主として団に関する事業、主として県連盟・地区に関する事業、主として日本連盟に関する事業に分類し、10ページから11ページに一覧表で示します。これらの事業は、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団が連携して取り組むもので、一覧表には関係する組織に「◎」「○」を示しています。

各分類の中では、スカウトプログラム関連事業、指導者関連事業、団支援・組織拡充関係事業、国際関係事業、社会連携・広報関係事業、「セーフ・フロム・ハーム」・安全関係事業、運営事業等が判るように関係委員会等を略字で示していますので、参考にしてください。

重点施策と重点事業 体系図

スローガン 「活動的で自立したスカウトを育てよう！」	重点施策	100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① コミッショナーの充実 ② 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム) ③ 指導者養成 ④ 地域コミュニティづくり ⑤ プログラムの見直し ⑥ 登録制度の見直し ⑦ スカウティングにおける成人の役割 ⑧ 情報伝達手段の刷新 ⑨ 組織体制の検討 ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ ⑪ 公益事業の取り組み ⑫ 野外活動施設の確保 <p>平成29年度の取り組みはP6～P9参照</p>
		加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> - 加盟員獲得に向けた広報活動の展開・スカウト活動のユニークさをアピール - 母親・父親世代へのアプローチと関心事のアピール - 団への支援と新団設立への取り組み
		安定した運営	<ul style="list-style-type: none"> - 企業・他団体・行政との連携促進 - 維持会員増強 - 登録料の検討 - 世界・地域との連携
		100周年記念事業の策定	<ul style="list-style-type: none"> - 記念事業の策定と準備開始 - 第18回日本スカウトジャンボリー(2022年)の会場決定
	重点事業	1. 日本ジャンボレット高萩2017・高萩スカウトフィールド・グランドオープン	<ul style="list-style-type: none"> - グランド・オープニング・セレモニー - ビーバーからローバーまで参加するジャンボレット
		2. 富士特別野営2017	- 山中野営場での最後の富士特別野営
		3. 山中野営場お別れイベント・山中野営場閉鎖	- 山中野営場お別れイベントの開催
		4. 世界および国際事業への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> - 第24回世界スカウトジャンボリー派遣実行委員会による日本派遣団編成準備 - 第9回APRサミット会議への代表団派遣(インドネシア) - 第41回世界スカウト会議日本代表団派遣(アゼルバイジャン) - 第15回世界スカウトムート派遣(アイスランド) - 第13回世界スカウトユースフォーラム(アゼルバイジャン)
		5. 第17回日本スカウトジャンボリーの開催準備	- 平成30年夏に開催の第17回日本スカウトジャンボリー(17NSJ)の開催準備
	一般事業	<ul style="list-style-type: none"> 1. 主として団に関する事業 2. 主として県連盟・地区に関する事業 3. 主として日本連盟に関する事業 <p>平成29年度の一般事業はP10～P11参照</p>	

Ⅲ. 長中期計画の行動計画より平成29年度に取り組む施策

1. コミッショナーの充実

- ・地区コミッショナーはこの運動の中核をなす重要な役割を持っている。
- ・地区コミッショナーの任務遂行能力の充実を図るために、コミッショナーハンドブックを軸として研修を実施する。
- ・定型外訓練であるラウンドテーブルの充実を図り、隊指導者が確実に隊運営を行い、活動の充実ができるようにサポートする。
- ・各隊(団)へのサポートの実効性を高めるために、地区コミッショナーは定期的なりサーチ(隊面接、団面接)を行い、状況の把握に努める。
- ・県連盟コミッショナーは各県下の状況を把握するとともに、ブロック内の情報を共有し、訓練、事業などの協力体制を構築する。
- ・コミッショナー制度、特に団担当コミッショナーが各県連盟や地区で活用できているかを検証し、制度そのものの見直しや改善を図る。

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
1-1	地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り	○	○	○	○	○			コミッショナー チーム
1-2	地区コミッショナー養成訓練を充実する	○	○	継続	⇒	⇒	⇒		
1-3	ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る	○	○	○					
1-4	団担当コミッショナーの検証	○	○	判断					
1-5	現任研修開始による支援任務の強化	○	○	○	○	○	○	○	
1-6	役務推進の自己貢献確認システムの導入(役務の進行状況を自己評価する)	○	○	○	○	○			
1-7	ブロック幹事の任務強化	○	○	○	○	○	○	○	
1-8	県連盟コミッショナーの日本連盟登録	○	○	○	○	○	○		
1-9	コミッショナー制度に関する研究諮問会議の設置	○	○	○					
1-10	各部門の質的向上	○	○	○					

2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

- ・ガイドブックを用いた研修の開催により、全成人指導者へ普及させる。
- ・普及・啓発を推進するために成人指導者全員へのeラーニングの実施をする。
- ・実施を行うにあたり、運用、問題対処法、情報収集、問題解決法について更に研究を行い、マニュアルを充実させるとともに、対応できる人材を育成していく。
- ・セーフ・フロム・ハームに関わる危害防止の機運を高めることや、本運動のこの取り組みを広く社会へ周知するために、対外広報、対内広報を積極的に行う。

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
2-1	ポリシー(考え方)の制定、ガイドライン制定、登録との連動	⇒							SAH安全
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	○	○	○	○				SAH安全 コミ
2-3	普及・啓発のための研修、ツール開発、eラーニングの活用	○	○	○	○	○	○		SAH安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	○	○	○	○	○	○	○	SAH安全 社・広報

3. 指導者養成

- ・野外活動の質を向上させるために、全指導者のスキルアップとプログラム立案・実施の実力をつけていく。特にボーイスカウト部門についてはハイキングやキャンピングの野外活動を中心としたプログラムを確実に実施する。
- ・野外活動を体験する中で理解を深めることを目的に強化する。

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
3-1 3-2	1. ボーイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンピングなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する		○	○	○	○	○	○	指導者 養成
3-3	基礎訓練を全課程で共通化	○	○	○					指導者 養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。)	○	○						SAK チーム

3-5	指導者の更新研修の確立	更新コースの開発、実施。		○	○	○	○	○	○	○	○	ディレクター チーム
3-6	任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う)	コミッショナー、理事等に対する訓練開発を行う。実施についてはコミッショナーが担当する。		○	○	○	○					タスク チーム

4. 地域コミュニティづくり

- ・イオンとの連携による「防災をテーマに地域への運動の浸透とPR活動」を行う(継続的な事業)。
- ・スカウト活動と防災、減災は親和性が高いので国、自治体、住民との協力体制や協定を結び、地域へ積極的に貢献する。
- ・小規模県連へ日本連盟から直接的な支援を行い、新団の設立を行う。
- ・これらの政策を推進し、青少年の育成や野外教育、防災教育の地域拠点づくりを都道府県連盟で取り組めるように、全国の自治体の首長への訪問等の働きかけを行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	23WSJで連携した折鶴キャラバン、平成28年度の防災キャラバンを活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○		団支援・ 組織拡充
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・ 組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○		役員 事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	○	○	○					SFI安全 防災 危機管理

5. プログラムの見直し

- ・ボーイスカウト部門、ベンチャースカウト部門の進歩課程のシームレス化の実施や、長期野営を含む野外活動の拡大を行うことにより、班活動の活発化、ジュニアリーダーの育成、野外活動の拡大、行うことにより学ぶ事を確実に実施する。
- ・運動の目標や、長中期計画でのビジョンである「活動的で自立した青少年」を達するために、有識者による検討等を行い現状の部門の区分や教育目標が各発達段階の青少年に整合しているかを検証する。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○					プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行					
5-3	進歩の見直しターゲットバッジ・マスターバッジの発展的廃止	進歩課程の改定による移行時期満了による廃止。		○	○	○	廃止			
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-5	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エントリー部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○					

6. 登録制度の見直し

- ・活動の質を確保するための1個隊のスカウト数や班数を再検討する事により標準値(スカウト数)を検証し、その結果を隊登録できる規定見直しに反映させる。
- ・隊登録に関する教育規程を地域性の考慮したものになるような検討を行う。
- ・部門による登録制度のあり方(BVSの2号会員化、RSの県連あるいは日連への直接的な登録)について検討を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	BSの班制教育を基準とする班(組)のあり方と最小人数を探索。	○	○	○	○	○			団支援・ 組織拡充 プログラム コミッショナー 財務
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	少子化による人数の少ない隊のあり方を探索。	○	○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)	部門見直しに伴う登録の仕方、登録費等の検討をする。(BVS、RSの登録費について)	○	○	○	○				

7. スカウティングにおける成人の役割

- ・多彩多様な人材を確保するために、長期にわたる特定の役務への就任や、一人に役務が集中するなどの事態が起きない様な仕組み作りを検討する。
- ・役務、任務の遂行が出来る様にトレーナーを活用し、定型訓練以外での個別支援や任務別の支援が出来る体制を強化する。
- ・ローバースカウトやユース年代の指導者を幅広く登用し運動の担い手としての人材育成を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
7-1	多彩で多様な人材を確保するためのスカウティングにおける成人のライフサイクルの定着化	役務が一人に集中しないよう定着化を図る。	○	○	○					指導者養成 コミッショナー
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	コミッショナーの依頼を受け、トレーナーの定型訓練外の活躍場所として機能させる。	○	○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	23WSJに参加・参画した人材を活用する。(人材の多様性を図る)	23WSJに協力頂いた人(特にホームステイ関係者)をアプローチして、援助を依頼する。	○	○	○	○				国際
7-4	幅広い人材の登用(特に若いユース等の県連・日連への登用)	運動の理解者→協力者→実務者に(そして登用)	○	○	○	○				プログラム コミッショナー 国際
7-5	ローバーの育成	APR、WOSMへ戦略的に育成して派遣する	○	○	○	○				

8. 情報伝達手段の刷新

- ・ICTを活用した事務局等の業務効率やコミュニケーションの向上を図るとともに、紙による文書(会議資料等)を削減し印刷費、郵送費の削減を図る。
- ・TV会議システムの導入により限りある経費の中で各種会議の最大の効果を得る。
- ・これらの効率の向上を組織全体の活性化に役立てる。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる	タスクチームを設置し、ICT活用実行に向け、取組を展開する。								事務局 ICT タスクチーム
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信	目標 ①紙文書や郵送費の削減と情報の迅速化を図る。 ②TV会議等の導入により会議構成員の労力軽減と旅費の削減を図る。	○	○	○	○	○			
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有	③全ての会議は、タブレットを使用する形式の確立。等								

9. 組織体制の検討

- ・財政面、広報面では23WSJで構築した関係性を維持発展させるためにさらなる社会連携を推進する。
- ・長中期計画の推進を図るために状況に適切した組織の改善を行うとともに、計画そのものをチェックする体制を整える。
- ・100周年記念事業を通じて組織の拡充を図る。また記念事業に対する財政的な基盤づくりに着手する。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り(「企業連携」「公益性」を意識した組織)	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業をめざす。	○	○	○					事務局

10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

- ・ボーイスカウト教育法や培ってきた指導者訓練法を生かしたア、野外活動指導資格制度の開発
- イ、企業・団体向けの研修システムの開発

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 他

11. 公益事業の取り組み

- ・体験活動、野外活動などの研究と成果発表を行い、社会への青少年教育啓発を行う。
- ・運動体として日常的な善行を強化推進するとともに、善行キャンペーンなどを通じて国民運動化へ向けてアクションを起こす。
- ・高萩スカウトフィールドについて一般利用を促進し、自然体験の場として青少年を中心とした市民への啓発を行う。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			コミュニケーション プログラム 社・広報 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○				
11-4	11-4. 現代青少年の研究	教育有識者会議を編成し、研究する。	○	○						プログラム 事務局

12. 野外活動施設の確保

- ・高萩スカウトフィールドの充実を図るとともに、日本連盟が提唱する活動の理想的なフィールドとなるような施設の改善やプログラム開発を行う。
- ・野営基準の見直しを行い、野営施設の基準ガイドラインを制定し、「ボーイスカウト公認野営場」の認定を行う。
- ・公認野営場を運営するスタッフやユース年代の育成のために高萩スカウトフィールドでのトレーニングを行う。
- ・野営場を様々な企業、団体、行政に利用してもらおうとともに共同事業を行うパートナー制度を構築する。

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化する)	高萩フィールドなどモデル野営地をつくる。		○	○	○				
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	(平成30年度以降の取り組み) 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	FHAのスタッフや高萩フィールドでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	
12-7	施設を通じたパートナーシップの構築(自治体、企業、学校、教育機関、他団体、国(文部科学省、環境省、林野庁等))	諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図る。	○	○	○					
12-8	ジャンボリー会場となりうる土地の確保	80万坪規模の常設ジャンボリー野営地を探す。	○	○	○	○	○	○	○	

平成29年度 事業計画 一般事業

* 重点施策・重点事業に含まれるものを除く

		所管組織				
一般事業		日	県	地	団	
主として団に関する事業	1	スカウトの信仰を奨励する。(信仰奨励委員会・宗教関係者の会)	◎	◎	◎	◎
	2	礼儀(挨拶)と規律(基本動作とスマートネス)を基準に基づいて確実に指導する。(日コミ・県コミ・地区コミ)	○	◎	◎	◎
	3	公共のマナーの大切さについて理解を喚起する。(日コミ・県コミ・地区コミ)				
	4	スカウトの「日々の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。(隊)				◎
	5	班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。		○	○	○
	6	震災等の復興支援活動を展開する。(団、地区、県連、日連)	○	○	○	○
	7	「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。(プ・県連) (地域各種団体とも協力して地域の奉仕活動や老人ホーム訪問等を推進する。)	○	○	○	○
	8	スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用する。(プ)	○	◎	◎	◎
	9	第60回JOTA、第21回JOTIへの参加を推進する。(プ)	○	○		○
	10	英国エディンバラ公国際アワード(プログラム)の推進を図る。(プ)	◎	○	○	◎
	11	県連盟コミッショナー推進のアクションプランの実施・状況を確認し継続する。(日コミ・県コミ)	○	○	○	◎
	12	BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し(プ、県コミ)、隊、団がこれを活用する。 県連盟・地区は団・隊が有効活用できるよう支援を行う。	◎	○	○	◎
	13	隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にする。(スカウトの成長などについて)				○
	14	団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関するアンケート」を活用する。(団・組) 県連盟・地区は有効活用の支援を行う。	○	○	○	◎
	15	各団で説明会の普及を図る。県連盟・地区は団が有効活用できるよう支援を行う。 (団、県連盟、地区)		○	○	◎
	16	『スカウティング』誌の充実を図り(社・広)、隊団での有効活用を促進する。(コミ) (隊・団指導者に向けた「スカウト教育法」の理解・応用に具体的に役立つ記事や保護者の理解促進に資する記事を掲載する)	○			○
主として県連盟・地区事業	1	各種訓練機関(BS講習会、WB研修所、安全セミナー、WB実修所、団委員実修所など)を実施する。(指)	◎	◎	○	
	2	「スキルトレーニング」への積極的な取り組みを促進し、上級訓練への参加者数を増加させる。(指)		◎	○	○
	3	隊長の当該隊指導者上級訓練課程への参加を促進する。(指、コミ)		◎	○	○
	4	指導者の資質向上を図る。(指・県コミ)	◎	◎		
	5	特に若手指導者を表彰できるようにする。(日コミ・県コミ)	◎	◎		
	6	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。(団・組)			◎	○
	7	組織間の訪問を推進する。日連→県連、県連→地区、地区→団	◎	◎	◎	
	8	アウトドアチャレンジ事業を県連盟独自事業として展開する。		○		
	9	安全促進(基幹)フォーラムを開催する。(SfH・安)	○	◎		
	10	「セーフ・フロム・ハーム」セミナーを開催する。(SfH・安)		◎	○	
主として日本連盟事業	1	新しいユニフォームについて全部門への移行を促進する。	○			
	2	隊活動の標準展開例のツールを作成する。(プ)	○			
	3	富士スカウトを顕彰する。(代表表敬)(プ)	◎	○	○	○
	4	全国ローバースカウト会議(RCJ)を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。(プ)	◎	○	○	○
	5	RS部門の在り方について方向性を検討し、確定する(プ)	◎			
	6	RS年代の全国組織を活かした活動を推進し、RCJフォーラムを開催する。(プ・日コミ)	○			
	7	英国エディンバラ国際アワードリーダー研修会を開催する。(プ)	◎			○
	8	海外派遣事業を実施する。(国)	◎	○	○	○
	9	海外スカウト受入事業を推進する。(国)	◎	○	○	○
	10	国際活動サービスチームの活動を推進する。(外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等)(国)	○			

		一般事業	日	県	地	団
主として日本連盟事業	11	イン・サービス・サポート(指導者への任務中の支援)充実のため、各種資料を作成する。(指)	○			
	12	日本連盟トレーニングチームの充実を図る。(指)	○			
	13	トレーナー研究会、トレーナー訓練を実施する。(指)	◎	○		
	14	新任トレーナーを養成する。(指)	○			
	15	平成29年度全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。(鳥取県鳥取市)	◎	○	○	○
	16	組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって組織拡充を推進する。(団・組)	◎	○	○	○
	17	募集説明会用に手持ちのものを再編集して活用できるツールを作成する。(社・広)	○			
	18	全国組織拡充担当委員長会合を開催する。(団・組)	◎	○		
	19	組織拡充顕彰を実施する。(団・組)	○			
	20	中途退団数の実人数を把握する。(事)	○			
	21	組織を挙げての広報活動を対外部に向けて実施する。(社・広、県連・地区そして団) そして、ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させる。	◎	○	○	○
	22	目的を明確にした広報資料を作成する。(社・広) (a ボーイスカウトとは、一般的なもの b 新規募集のためのもの、最終ページを県・団などで加工できるようにする c 入団した保護者向けのもの)	○			
	23	スカウト運動のイメージを社会に広める。(社・広)	○			
	24	すべてのスカウト保護者向け資料の提供を検討する。(社・広)	◎			○
	25	ホームページ等電子媒体の充実と活用を図る。(社・広)	◎			○
	26	全国BS写真コンテストを実施する。(社・広)	◎			○
	27	新刊書籍・資料の検討を行い発行する。(プ、指、社・広)	○			
	28	WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。(プ、指、社・広)	○			
	29	絶版書籍の再版を検討し実施する。(プ、指、社・広)	◎			○
	30	各種ハンドブックの内容改訂を行う。(関連委員会)	○			
	31	スカウト歌集の編纂を検討する。(ソ)	○			
	32	スカウトソング研修会を開催する。(ソ)	◎			
	33	維持会員入会促進活動等を推進する。(事)	○			
	34	ボーイスカウトカードへの入会促進を図る。(事)	○			
	35	遺贈システムのPRと促進を図る。(事)	○			
	36	世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。(事)	○			
	37	スカウトライオンズ/スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する(事)	○			
	38	ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラムを促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
	39	書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
	40	23WSJで構築した募金ネットワークを継承し活用する。(社・広、財)	◎			
	41	行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。(事)	○			
	42	東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。(事)	○			
	43	新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置し検討を進める。(PT) (日本ジャンボリーなど開催可能な常設キャンプ場や指導者訓練野営場の確保を目指す)	○			
	44	静岡県立富士山麓山の村施設の活用を促進する。(事)	◎	○	○	○
	45	野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ、 全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進する。(PT、プ)	◎	○	○	○
	46	平成29年度以降の安全促進フォーラム内容の検討を行う。(SfH・安)	○			
	47	防災・危機管理に関する提言を具現化する。(防危)	◎	○		
	48	「共済事業」の運用を行う。(共済委員会)	◎	○	○	◎

平成29年度事業カレンダー

	平成29年4月	平成29年5月	平成29年6月	平成29年7月	平成29年8月	平成29年9月	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月
1	土	月	水	土	火	金	日	水	金	日	水	土
2	日	火	金	日	水	土	月	木	土	日	火	金
3	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	日
4	火	木	日	火	金	月	水	土	月	日	火	日
5	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	水
6	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	木
7	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	土
8	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	土
9	日	火	金	日	水	土	月	木	土	日	火	金
10	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	日
11	火	木	日	火	金	月	水	土	月	日	火	日
12	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	水
13	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	日
14	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	土
15	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	土
16	日	火	金	日	水	土	月	木	土	日	火	金
17	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	日
18	火	木	日	火	金	月	水	土	月	日	火	日
19	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	水
20	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	日
21	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	土
22	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	土
23	日	火	金	日	水	土	月	木	土	日	火	金
24	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	日
25	火	木	日	火	金	月	水	土	月	日	火	金
26	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	日
27	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	日
28	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	土
29	土	月	木	土	火	金	日	水	日	水	土	日
30	日	火	金	日	水	土	月	木	土	日	火	金
31	月	水	土	月	木	日	火	金	日	水	土	日

日本連盟以外の行事予定(通報のあったもの)

岩手連盟第16回県キャンパー、山形県連盟野営大会(7-8月)、群馬県連盟第30回野営大会、京都キャンパー(5/4-7)、和歌山連盟第15回県キャンパー、鳥取連盟平成29年度野営大会、岡山連盟スカウトキャンパー(8/6-11)、広島県連盟2017スカウトキャンパー(9/16-18)、山口県連盟県キャンパー(8月)、熊本県連盟県大会(8月)、大分県連盟平成29年度大分県野営大会(8/2-6)